

水稻・大豆の生育と管理

令和8年8月号
宇佐市農政課
北部振興局地域営農・水田活用第一班



回覧

HPにカラー版を
掲載しています
(毎月1日更新)

● 水稻の管理 (基幹防除の徹底)

出穂期を迎える8月は、栽培暦を参考に**適期に病害虫の防除**を行うかが、米の品質や収量を低下させないカギとなります。

病害虫の発生情報を意識し、適期防除の徹底をお願いいたします。

◆ カメムシ対策の徹底

- 近年、夏の気温が高くカメムシ類の発生が増えています。
- 種類により防除タイミングが異なります。

圃場をよく観察して、下記を参考に適切な時期に防除を行いましょう。

	被害	防除タイミングの目安
イネカメムシ 	不稔米・斑点米 大幅減収	出穂直後 1回目 → 7~10日後 → 2回目
斑点米カメムシ  	斑点米 品質低下	穂揃期 1回目 → 7~10日後 → 2回目

早生品種は要注意

※周囲よりも出穂が早い圃場はカメムシが集まりやすいため、防除を徹底しましょう。

※写真の出典：©2022大分県農業研究部病害虫対策チーム

農薬名	適用病害虫	使用時期	希釈倍率	使用液量
ダブルカットトレボンフロアブル	いもち病、内穎褐変病 もみ枯細菌病、コブノメイガ ウンカ類、カメムシ類等	穂揃期まで	1,000倍	60~200L
スタークル液剤10	ウンカ類、カメムシ類 ツマグロヨコバイ	収穫7日前まで	1,000倍	60~150L
キラップフロアブル	ウンカ類、カメムシ類	収穫14日前まで	1,000~2,000倍	60~200L

カメムシは出穂後に粃を吸汁し**等級低下**や**大幅な減収の原因**になります。
発生時や、過去に被害が多い地域では防除を徹底しましょう！



◆ 高温多湿で広がる紋枯病に注意！

病害虫の発生情報をチェック！

- 前年度発病した圃場では病原菌の密度が高まるため、注意が必要です。
- 紋枯病予防の箱剤を使っても、天候次第で追加防除が必要な場合があります。出穂期1~2週間前に圃場を巡回し、紋枯病を確認した場合は防除してください。

農薬名	適用病害虫	使用時期	希釈倍率	使用液量/10a
モンカットフロアブル	紋枯病	収穫14日前まで	1,000~1500倍	60~150L
ブラシンバリダフロアブル	いもち病、紋枯病等	収穫14日前まで	1,000倍	60~150L

●大豆の管理

◆ 中耕培土の実施

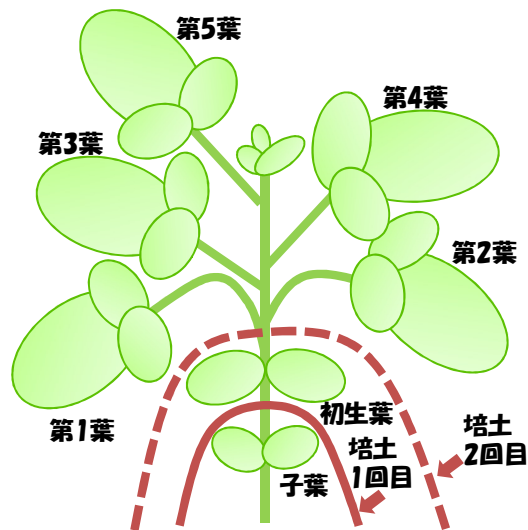
- 【中耕培土のメリット】
- 湿害や雑草、倒伏の軽減
 - 大豆の生育を促進

★適切な時期に2回程度行いましょう。

回数	適期	培土の高さ
1回目	本葉2～3葉期	子葉が埋まる程度
2回目	本葉5～6葉期 (播種後30日頃)	初生葉が埋まる程度

- 2回の実施が難しい場合は4葉期以降、1回で初生葉までを目安に極力高く培土します。

※開花前まで実施できます。



◆ ハスモンヨトウ発生時の対応

白変葉が急激に増えたら防除を検討しましょう。ハスモンヨトウは、少雨によって活動が活発になりますので、降雨前の防除を心掛けましょう。下記を参考に適期での防除をお願いします。

病虫害名	農薬名	使用倍率	使用液量 /10a
ハスモンヨトウ	プロフレアSC	2,000～4,000倍	100～300L
	グレースィア乳剤	2,000～3,000倍	

防除は、夕方または早朝の幼虫が活動する時期に行ってください。

◆ カメムシ類、紫斑病防除の徹底

暖冬の影響で、**越冬するカメムシが増加傾向**にあり、発生が多くなることが想定されます。

カメムシ防除は開花期から注意を払い、幼莢期から子実肥大期に2回、7～10日おきに防除してください。

基幹防除として紫斑病と合わせた防除を実施してください。下記を参考に適期での防除をお願いします。

●主な防除薬剤とタイミング

病虫害名	農薬名	使用倍率	使用液量/10a
紫斑病	ニマイバー水和剤	1,000～2,000倍	100～300L
	アミスター20フロアブル	2,000～3,000倍	
カメムシ類	スタークル液剤10	1,000倍	
	キラップフロアブル	2,000倍	

